

ジゼラ・アランテスさん

(婦人部本部長)

私とSGIの出あった女優をいま

手掛けました。SGIの活動から着想した、子どもたちに環境保護の大切さを伝えるプロジェクトでは、制作から実施まで、全ての責任を担いました。これが大きな反響を呼び、ブラジルの90都市で25万人が参加するという大成功を収めることができました。しかし、何もかも順調だと思っていた08年、突然、会社から電話一本で解雇を告げられました。たった一日で、何もかも失ったと、私は絶望し、孤独に苛まれました。

そんな時、先生が、スピーチの中で一句を紹介されました。「私も師子 君も師子たれ 師弟不二」と。そして、「破邪顕正の堂々たる師子吼で、嫉妬の悪人たちのデマや中傷を、毅然と打ち破っていくのだ。私は師子である。何も恐れはない。皆さんは、一人立つ『正義の師子』になってもらいたい」と、烈々たる気迫で語られました。

2年後、友人から紹介を受け、私はブラジルSGIに入会することができました。入会前、私は子ども

子だ。こう思うと勇気が出ました。先生の真心に伝えようと、私は2年前、自らイベント会社を立ち上げました。学会活動にも一歩も引かず、全力で取り組みました。ちょうどこのころ、支部婦人部長の任命を受けました。多忙を極める仕事との両立には、今までの何倍もの知恵と忍耐が必要でした。毎日午前4時半に起床。1時間半の題目を唱えてから出勤しました。時間をこじ開け、活動に全力で取り組みました。支部で30世帯の折伏が成就し、私自身も3人の友に御本尊流布をすることができました。

さらにうれしいことに、昨年1月に総合方面で開催した青年文化祭で、舞台演出のお手伝いをさせていただいたところ、演劇に携わってくれた未入会の青年が心から感動し、6人が自ら進んで入会したので。本年からは婦人部本部長の使命を頂き、さらに青年を育成していこうと決意しています。広布の前進とともに、仕事も軌道に乗り始めました。子どもたちにブラジルの素晴らしさを感じてもらうために手がけた教育プロジェクトは、文

10年前、先生は長編詩「世界の王者たれ！ブラジル」で、「広宣流布とは『師弟の戦』である。仏とは『絶対に勝つ人』である。ブラジルとは『絶対の希望』である」とつづってくださいました。これからも文化の力でブラジルに希望を送り、絶対に勝利し、先生にお応えしてまいります。

祖国の繁栄を願い、喜び勇んで広布の活動に励む、アランテスさん(2列目左から4人目)



まるで、気弱になっ

